

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会

第3回 情報共有会合 議事概要

1. 日時：平成25年9月18日（水） 13時30分～15時30分

2. 場所：札幌第一合同庁舎10F 共用第1会議室

3. 出席者 18名

北海道開発局(4名)、札幌市(1名)、江別市(1名)、北海道大学(1名)、(一社)北海道測量設計業協会(1名)、建設コンサルタンツ協会北海道支部(1名)、日本写真測量学会北海道支部(1名)、北海道GIS・GPS研究会(2名)、北海道GIS技術研究会(1名)、Digital北海道研究会(2名)、国土地理院北海道地方測量部(3名)

4. 議事

1) H25年度の産学官懇談会の準備状況の報告

2) 防災に関する取り組み報告

(1)～GISを活用した地方消防防災体制の充実・強化について～

江別市総務部総務課(危機管理/防災担当) 目黒 茂樹主任

(2)～防災・災害時における写真測定の役割～

日本写真測量学会北海道支部 齋藤健一事務局長

3) 討論（テーマ「防災について」）（グループ毎に）

・各グループ内での自己紹介

・発災時に必要最小限の情報のあり方、提供方法。

情報を共有する場合の組織のあり方（ハザードマップの普及にはタブレット端末での活用が重要）、地理空間情報が普及しない理由（共有データの更新の組織づくり）

4) その他

・第4回情報共有会合の開催日時(案)

産学官懇談会開催後の年内に開催を検討

・次回のテーマについて

産学官懇談会の報告をメインとしたい。その他に関して、メールで意見集約。

5. 配布資料

1) 事務局

(1) 会議次第

(2) イベントカレンダー

(3) 第3回情報共有会合出席者名簿

(4) 第2回情報共有会合の議事概要

(5) G空間EXPO2013 パンフレット

2) 取り組み報告資料

(1) 目黒主任 「GIS を活用した地方消防防災体制の充実・強化について」

(2) 齋藤事務局員「防災・災害時における写真測量の役割」

3) その他

(1) GIS Day in Hokkaido 2013 の開催案内

6. 議事概要

- ・はじめに、今年度の産学官懇談会の準備状況について、事務局より説明を行った。
現在、事務支援の契約が完了し業者との打合せを終えている。今後は、委員の確定と開催日の調整を最優先として進めるが、できれば例年と同じ11月中に開催したい。
懇談会のテーマ(案)を「情報の普及」として橋本座長と事前打合せを行っている。また、取り組みが遅れている情報共有のイベントカレンダーのHPについて、今回の事務支援業務に原案作りを含んでおり、懇談会に参考として掲示し、意見を伺い最終版とする予定である。
- ・前回につづいての議題テーマ「防災について」に関連する取り組み報告として、江別市総務部総務課(危機対策・防災担当)の目黒主査より「GIS を活用した地方消防防災体制の充実・強化について」について、日本写真測量学会北海道支部の齋藤事務局員から「防災・災害時における写真測量の役割」についてそれぞれ発表していただいた。
質疑で出席者から、1)防災訓練において、参加からタブレット端末を活用した避難経路の情報はそのまま集約して可視化しているのか。2)EMT 江別(Emergency Mapping Team)は実際稼働しているのか。等の質問に関して、目黒主任から、EMT 江別は、酪農学園大学の協力を得て共同検証している体制であり、避難訓練等での情報集約から可視化については、EMT 江別を構成する酪農学園大学のメンバーが中心となり共同で行っている。また、ハイブリッド双方向情報伝達システムについては、総務省消防防災科学技術研究推進制度事業により3カ年の補助事業として取り組んでおり今年が2年目。実用化に向けた検証を実施中である。との説明がされた。
- ・討論は、各グループ単位で、参加者の自己紹介を皮切りに、発災時に必要な情報なデータと提供のあり方、データ配信の組織のあり方、地理空間情報が普及しない理由について議論を行い、各グループより議論概要の報告発表を行った。
1) Aグループ発表概要
 - ・関係部署との情報共有が大事であるが、必要最小限度の避難に必要なデータとして、自分の位置情報・避難場所の位置・安全な経路がある。
 - ・データを3次元化(可視化)することで、ナビゲーションとしてスマホやタブレット端末を活用できるが、災害発生時に即時対応するには、誰でも使用できるよう日頃からの勉強(訓練)が重要である。ボタンやアイコン一つの操作で、情報が得られるようになってほしい。平時はアナログ的な防災情報でよく、災害時はその場の状況

が瞬時判断できることが必要。

- ・その場での情報として、電柱等への海拔表示や避難経路の情報が増えている。

2) B グループ発表概要

- ・各機関等で保有している防災に利用できる情報について、技術的には出せる環境にあるが、組織的な対応となっていない。発注者側も受注側も情報共有の重要性を理解していない。
- ・GISの普及が無いとハザードマップは普及しない。タブレット端末を活用するには、ハザードマップの対応が大事である。
- ・発災時のデータを集約する場合に、誤報による2次災害を防ぐためにもデータの信頼性を検証することが大事。(プロからのデータなのか確認する必要がある)
- ・地理院から公表されている地理空間情報は大事であるが、国が責任を持って提供する共通フォーマット(Kml & PDF)を明確にする必要がある。

3) C グループ発表概要

- ・地理空間情報が普及しないのは、データ更新の仕組み作りがされていない。
- ・マップアップリンクでデータの共有化が図られつつあるが、データの精度追求に固執し過ぎているのでは。精度を高める目的と必要となる精度が明確化されていない。
- ・地域のデータ精度を高めるためには、地域に根ざした地元企業を中心となるような形態が大事。(大手企業による作りっぱなしは駄目、データの更新・メンテナンスが重要)

・事務局から

次回開催日時について、予定は来年1月の予定であるが、11月開催予定の懇談会報告をできれば年内に開催したい。報告のみであれば討論等を行う時間があるので、次回のテーマや事務局で実施してほしい案件(Web.NEXT等の利用方法等)について、メールで要望を伺うので記述して返送していただきたい。

・最後に国土地理院北海道地方測量部次長の日下より、会合総括と引き続きの出席をお願いし、第3回の会合を終了した。